

住み慣れたまちで、誰もが安心して暮らし続けるために

近年、全国的にも、認知症などが原因で、高齢者が行方不明になる事件が多発しています。特に認知症を患っている場合は、行方不明になった際、一刻も早い発見が重要です。

市では、認知症高齢者などが行方不明になったときに備え、平成27年度から地域のみなさんと一緒に、「高齢者等SOS模擬訓練」に取り組んでいます。

鎮西校区

10月2日・参加者数 201人

【参加者の感想】

- 知らない人に声を掛けることは勇気がいるため、訓練する機会がないと難しい。
- 若い世代にも参加してほしい。



▲行方不明者役に優しく声を掛けました



▲活発な意見が交わされた反省会

弓削田校区

10月30日・参加者数 200人

【参加者の感想】

- 訓練すれば声掛けはできると思うのでやってよかった。
- 訓練を重ねることが大事なので、継続したほうがよい。



▲大勢が見守る中声掛けを練習



▲警察官からの聴取も訓練のひとつです

金川校区

11月20日・参加者数 73人

【参加者の感想】

- 行方不明者役に立ち止まってもらうのが難しかった。
- 声掛けができなかったとしても、行方不明になっているような人がここを通過していたと通報することはできる。



▲はじめは慣れない様子でしたがしっかり声掛け



▲声掛けのポイントは笑顔！

あなたは認知症とどう向き合いますか

田川市在宅医療推進フォーラム

11月15日、田川青少年文化ホールで「田川市在宅医療推進フォーラム」が開催され、約280人が参加しました。

この日は、認知症を患っている実母との生活を映像化した「毎日がアルツハイマー」などの映画監督である関口祐加さんが「認知症介護によって大切なこと」と題した基調講演を行いました。講演の中で関口さんは「誰よりも本人が一番不安を感じ、辛い思いをしている。認知症の症状は十人十色。介護に必要なのは創意工夫です」と訴えました。

引き続き行われたシンポジウムでは、関口さんのほか、大学教授や医師、精神保健福祉士、看護師、地域住民、社会福祉士が、認知症の人や家族を支える関係機関の役割をそれぞれの立場から発表し、参加者から寄せられた質問に丁寧に答えていくと、会場では、真剣な様子でメモを取る姿なども見られました。



▲「認知症の人のすべての行動には理由があります」と訴える関口さん

▶シンポジウムでは、さまざまな視点からの説明がなされました



認知症公開講座

認知症の早期発見・早期治療をテーマに公開講座を行います。

- とき 2月23日(木)14時～16時
- ところ 田川青少年文化ホール
- 内容 【講演】「治る認知症について」講師 梅野一男さん(福岡認知症医療センター長兼見立病院副院長)、「受診のタイミング」講師 上田善徳さん(見立病院精神科認定看護師)、相談会
- 申し込み方法 2月13日(月)までに電話で申し込みください。
- 申し込み・問い合わせ 福岡県認知症医療センター見立病院 (☎46-2164)